

コンセント」の徹底を宣言し、診療料金の実態調査結果を公表、地方獣医師会に「動物医療相談窓口」を設置し、小動物医療の適正化を図り社会的要求に応えた。豚コレラの国内撲滅対策、平成12年(2000)の宮崎の口蹄疫疑似発生、平成13年(2001)年の千葉県BSE発生後の個体識別と情報管理・全頭検査体制の確立、平成16年(2004)山口県で79年ぶりの高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)対策に取り組んだ。また、(社)日本獣医学会と共同学会の開催、生涯教育、学校飼育動物、監視伝染病体制、農場HACCP、人獣共通感染症、野生動物救護、身体障害者補助犬等の対策を推進した。さらに、倫理規範として小動物と産業動物の医療指針を策定した。日本獣医師会の組織改革や農水省小動物班設置を進めた。関東しゃくなげ会会長として産業動物獣医療の普及向上に努めた。現場重視の著作に加えて、牛の乳頭切開や胃汁採取器具を考案実務に供した。

獣医師免許審議会委員、動物保護審議会専門委員、埼玉県畜産協議会委員、(社)日本獣医学会評議員、日本臨床獣医学会評議員をはじめ、北里大学客員教授、日本大学講師、北里研究所客員部長、埼玉栄養専門学校理事として教育にも深く関わった。また、中国青年の国内研修・台湾との国際交流に貢献した。晩年「くまがや賢治の会」を激励。日本獣医史学会顧問・名誉会員。

【著書】乳牛の病気、共著 農文協、昭和43年(1968)。日本酪農の発展方向、共著 酪農事情社、昭和44年(1969)。乳牛の職業病、共著 酪農事情社、昭和46年(1971)。牛の臨床検査法、共著 農文協、昭和48年(1973)。肥育素牛を中心とした牛の病気、日本獣医師会、昭和49年(1974)。家畜外科学実技ノート、共著 日大家畜外科学教室、昭和50年(1975)。獣医内科学、共著 文永堂、昭和54年(1979)。豚病臨床図説、共著 日本畜産振興会、昭和60年(1985)。新版獣医内科学、共著 文永堂、昭和61年(1968)。獣医学大辞典、共著 チクサン出版社、平成元年(1989)。他。

【参考文献】旭日重光章受賞祝賀会資料、平成18年(2006)。日獣60年誌特別寄稿、平成20年(2008)。埼玉獣60周年記念誌、平成21年(2009)。盛農同窓会だより、平成24年(2012)。日獣会誌、66巻10号、平成25年(2013)。

比留間一男 (HIRUMA Kazuo)

栗田武男

KURITA Takeo (1898~1987)

明治31年(1898)6月26日利根川の南岸埼玉県大里郡弥藤吾村(妻沼町を経て現・熊谷市)の素封家に次男として誕生。長じて地元の小学校、熊谷中学校を経て大

正9年(1920)東京帝国大学農学部獣医学実科を卒業、在学中に陸軍獣医官希望依託生となる。国家の干城たらんと陸軍獣医部見習士官として近衛野砲兵連隊付となる。その後軍馬補充部、朝鮮軍獣医部員、騎兵隊、輜重兵隊付第3軍部員等の勤務に服した。この間陸軍獣医学校乙種学生、甲種学生、専攻学生(外科)等勉学に努めた。昭和16年(1941)広州駐屯の第104師団獣医部長に就任。戦闘の間に分団研究会を開催し、兵団隷下獣医部将校の識能向上に努めた。一方病馬廠を指導し、^{さくへき}齧癖矯正手術96頭の実施、仮性皮炎および鼻疽の防疫を徹底し、軍馬の健康保全に努力した。菰田康一師団長の信頼も厚く、昭和18年(1943)陸軍獣医学校教官病馬廠兼研究部員に任じ、「軍陣外科学提要」を発刊する等壮年期の活躍は鮮明である。昭和19年(1944)第14方面軍獣医部長に就任重責を担った。陸軍獣医大佐に昇進し、比島(フィリピン諸島)の激戦に参加した。



終戦で復員、昭和21年(1946)熊谷市に開業。副会長を経て昭和38年(1963)から9期18年間、第3代埼玉県獣医師会会長として会務発展に尽力した。昭和35年(1960)に始まる家畜保健衛生業績発表会や、昭和40年(1965)に埼玉県獣医師会会旗の新設、昭和52年(1977)には埼玉県獣医師会「会員憲章」を制定した。会の組織強化、会員の倫理高揚、学術の普及向上に努め常に誠実真摯・研究努力を人生訓とした。また、日本獣医師会理事を経て昭和42年(1967)常任理事、昭和44年(1969)日本獣医師会副会長、その後顧問を務めた。昭和38年(1963)から農林省獣医師免許審議会委員をはじめ、埼玉県狂犬病予防協会初代会長、埼玉県畜産協議会委員等畜産関係団体の要職に就任した。

現役勇退後も埼玉県獣医師会名誉会長として後進の指導に当たったが、病魔の侵すところとなり昭和62年(1987)9月10日死去。享年89歳。栗田家と埼玉県獣医師会の合同葬儀が熊谷市石上寺で執り行われた。なお、現職中の活躍により従五位に叙され、昭和16年(1941)勲三等瑞宝章、昭和43年(1968)黄綬褒章の栄に浴している。

〔参考文献〕埼玉県獣医師会史：昭和53年(1978)。埼玉県獣医師会会報 第288号：昭和62年(1987)。日本獣医師会50年誌：平成10年(1998)。埼玉県獣医師会60周年記念誌：平成21年(2009)。

原文：五十嵐幸男 (IGARASHI Yukio)

補足：比留間一男 (HIRUMA Kazuo)